

健康教育論	2年・前期	2単位 30時間	教授 島田 昇 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33410922

1. 授業のねらい・概要

学生は健康教育の演習をとおして、健康教育の目的・方法について理解し、実践することができることを目的とする。このことは、人々の健康自己管理能力の向上を援助するものであり、ひいては人々の行動やライフスタイルの改善、健康な社会環境の醸成を考察することができる。

2. 学修の到達目標

1. 健康課題の歴史的変遷と近年における健康課題を説明できる。(D-2)
2. 保健信念モデル（ヘルスビリーフモデル）「罹患性」、「深刻さ」、「利益」、「障壁」を使用し説明することができる。(D-2)
3. 自己効力感を高める方法を4つ述べるができる。(D-2)
4. 演習を通じて、健康教育の企画と展開方法を準備することができる。(D-2)
5. 演習を通じて、健康教育指導案を作成することができる。(D-2)
6. 演習を通じて、健康教育シナリオを作成することができる。(D-2)
7. 演習を通じて、健康教育媒体を作成することができる。(D-2)
8. 健康教育を実施することができる。(D-3)
9. 他グループの健康教育の対象者として参加し、健康教育を評価することができる。(D-3)

3. 授業の進め方

テキストに基づいた講義および、グループワークによる演習を中心に進める。演習として、健康教育の実際をイメージし、課題の設定、学習資料の作成、教室の運営等を行う。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、グループワーク、ロールプレイを用いる。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施：Google Classroomによる学習課題の提示。Gmailによる学習教材の配信。

4. 授業計画（講義・演習）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	健康教育理論の変遷	講義	予習：公衆衛生看護学.jp「健康教育に用いる基礎理論」p219～222を読んでまとめる。 復習：講義内容の保健信念モデル（ヘルスビリーフモデル）について教科書を使ってまとめておくこと。	島田 昇
2	健康づくりの歴史とヘルスプロモーション	講義	予習：公衆衛生看護学.jp「社会的学習理論と自己効力感」p222を読んでまとめる。 復習：自己効力感について教科書を使ってまとめておくこと。	島田
3	健康教育指導案	演習	予習：公衆衛生看護学.jp「企画」	島田 他

			p224～226 を読んでまとめる。 復習：講義内容の健康教育の評価について教科書を使ってまとめておくこと。	
4	教育媒体	演習	予習：公衆衛生看護学.jp「教育媒体」p227～228 を読んでまとめる。 復習：教育媒体の種類について教科書を使ってまとめておくこと。	島田 他
5	健康教育指導案作成 ① (企画案の作成：グループワーク)	演習	予習：グループで健康教育の企画・方法について話し合うこと。 復習：グループで健康教育指導案を作成する。	島田 他
6	健康教育指導案作成 ② (導入・展開・まとめの作成：グループワーク)	演習	予習：グループで健康教育の企画・方法について話し合うこと。 復習：グループで健康教育指導案を作成する。	島田 他
7	健康教育シナリオ作成 ① (各成員の役割，指導案に対応した流れについて考察：グループワーク)	演習	予習：グループで健康教育の実践の役割について話し合うこと。 復習：グループで健康教育シナリオを作成する。	島田 他
8	健康教育シナリオ作成 ② (対象に合わせた言葉を考察：グループワーク)	演習	予習：グループで健康教育の実践の役割について話し合うこと。 復習：グループで健康教育シナリオを作成する。	島田 他
9	健康教育媒体の作成 ① (媒体の内容について考察：グループワーク)	演習	予習：グループで健康教育の媒体について話し合うこと。 復習：グループで健康教育媒体を作成する。	島田 他
10	健康教育媒体の作成 ② (媒体の構成について考察：グループワーク)	演習	予習：グループで健康教育の媒体について話し合うこと。 復習：グループで健康教育媒体を作成する。	島田 他
11	健康教育媒体の作成 ③ (対象に伝えるために必要な書き方を考え作成：グループワーク)	演習	予習：グループで健康教育の媒体について話し合うこと。 復習：グループで健康教育媒体を作成する。	島田 他
12	健康教育の実践 ① (健康教育の発表と他グループの健康教育の評価)	演習	予習：グループで健康教育実践のリハーサルを実施しておくこと。 復習：他のグループの健康教育について良い点・改善点について評価をする。	島田 他
13	健康教育の実践 ② (健康教育の発表と他グループの健康教育の評価)	演習	予習：グループで健康教育実践のリハーサルを実施しておくこと。 復習：他のグループの健康教育について良い点・改善点について評価をする。	島田 他
14	健康教育の実践 ③ (健康教育の発表と他グループの健康教育の評価)	演習	予習：グループで健康教育実践のリハーサルを実施しておくこと。 復習：他のグループの健康教育について良い点・改善点について評価をする。	島田 他
15	健康教育の実践 ④ (健康教育の発表と他グループの健康教育の評価)	演習	予習：グループで健康教育実践のリハーサルを実施しておくこと。 復習：他のグループの健康教育について良い点・改善点について評価をする。	島田 他

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は 3 分の 2 以上の出席した者）60%，健康教育指導案 10%，健康教育シナリオ

10%，健康教育媒体 10%，健康教育の実践 10%を基準に総合的に評価する。合格基準は 60%以上とする。合格基準に満たない（60%未満）場合は、単位認定できない。

成績評価は、「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表を基に、5 段階評価で採点する。尚、ルーブリック評価表に関する詳細については、第 1 回講義内で紙面にて別途説明する。

健康教育指導案作成，健康教育シナリオ作成，健康教育媒体作成，健康教育の実施についての実施方法，提出期限，提出方法（場所），評価基準の詳細については，第 1 回講義内で紙面にて提示する。定期試験の出題範囲及び出題方法等は，講義内にて口頭で説明する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：荒賀直子，後閑容子（2024） 公衆衛生看護学.jp（第 6 版） インターメディカル

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

グループ演習をスムーズに行うため，進行度に合わせ，グループ間でスケジュールを計画し，課題を実施すること。

8. 受講上の留意事項

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，授業に関係ない言動（スマホの使用等）は慎むこと。

講義時間開始後の無断での教室の入室および退出は慎むこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験の解答は試験後に口頭にて解説する。提出された課題は教員が確認して返却する。内容が不備なものは再提出を求める。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

行政委託機関及び，医療機関での保健師としての勤務経験を活かして，講義・演習を行う。